

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 システムデザイン・マネジメント研究所主催
後援：一般社団法人PMI日本支部（最大39PDU受講証明書取得可能）、一般財団法人エンジニアリング協会

第4回 グローバルビジネスに打ち勝つ プロジェクト・マネジャー能力強化研修

PROJECT MANAGER LEADERSHIP TRAINING



対象：グローバルプロジェクトのリーダーを目指す中堅社員

合宿制集中講義×2回（計5日間コース）

2012年11/13（火）～11/15（木）、12/5（水）～12/6（木）

海外進出・展開プロジェクトをリードする人材の育成

- 都市開発、環境ビジネス、情報システム、通信環境構築のための技術連携
- 問題解決能力、統合マネジメント能力、コミュニケーション能力の向上
- 国際協調と危機管理、プロジェクト遂行契約、事業評価手法の習得

基礎知識から実践的事例学習まで、産学協同のカリキュラム

講師陣による修講後のきめ細かいフォローアップ





第4回プロジェクト・マネジャー能力強化研修 開講にあたって

新興国における生活・文化の向上、人口の増加に伴い、エネルギー、インフラストラクチャー、公害環境、生活産業、災害対策、情報システム整備等の分野は、グローバルビジネスプロジェクトとして大いに期待されています。

しかし、現在の日本のビジネスは国際競争力を失いつつあり、将来の日本経済を活性化していくうえで、これら海外のビジネスプロジェクトに参加・挑戦していくリーダーシップを強化することが必要です。

これらのプロジェクトを効果的に遂行させるためには、「プロジェクトマネジメント」と「システム思考+デザイン思考」の両方の能力をマスターして駆使できるプロジェクト・マネジャーの強化が必須条件といえます。

本研修は経験豊富な講師陣により、これらのビジネスニーズに対応できるプロジェクト・マネジャーの強化育成をします。

セミナーコーディネーター

当麻 哲哉

Tetsuya Toma

慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 准教授

Project Management Professional (PMP)、PMI 日本支部理事（教育担当）

米国3M社で製品開発スペシャリストとして、グローバル市場での数々のプロジェクトを経験。

豊富な新製品導入実績により多数の社内報奨を受賞した。2008年4月より現職。

システムデザイン・マネジメント研究科のコア科目「プロジェクトマネジメント」を担当。

研修内容

本研修では、プロジェクト・マネジャーに必要とされる能力を、従来型研修に「システム思考+デザイン思考」を加えた次の4つに分類し、ワークショップを活用しながら習得していきます。

A プロジェクトマネジメント遂行スキルを強化

- グローバルビジネスを成功に導くためのツールの習得とスキルの強化
- プロジェクトマネジメント遂行技術の強化ポイントとは
- プロジェクトの効果的な進め方と進捗管理の評価方法の習得

B システム思考とデザイン思考をマスター

- 広い視点を持ち、対象をシステムとして扱うシステム思考力の強化
- デザイン思考による協働に基づくイノベティブデザイン方法の習得
- システム思考とデザイン思考を統合したシステムデザイン方法の理解

C 効果的リーダーシップとコミュニケーション力の向上

- 情報の共有化によるチームマネジメント構築のリーダーシップ強化
- 葛藤処理におけるリーダーシップ～「人に優しく、議論に厳しく」
- 欧米と日本の対照による論理的コミュニケーションの特徴とは

D プロジェクトを支援するマネジメント組織の整備

- 契約上のリスクと法的要請に対応できるリーガルマインドの育成
- 効果的なプロジェクト遂行のためのプロジェクトマネジメント・オフィス機能とマネジメントシステム
- プロジェクト終結後の運用における事業評価方法を習得

講師陣



プロジェクト（大中小型）遂行の仕組みの理解とプロジェクトマネジメントの基盤の強化

喜ばせれば人は力を出すのです。プロジェクトリーダーに必要なことは、いかに気持ちよく仕事のできる環境を作ってやるかということ。「失敗してもオレが責任を持つ」と権限を委譲(Delegate)し、失敗を責めずに解決策と一緒に考えてやることです。近年、水ビジネスや高速鉄道、原子力発電、都市開発など、多数の組織や企業が絡む複雑なシステムビジネスのニーズが急増しています。細かく管理するマネジメントや、専門技術のスペシャリストだけでは、こうした複雑なプロジェクトを引っ張れません。システムエンジニアリングによる全体を見る力、効果的なビジネス展開ができるプロジェクトリーダー育成が急務となっています。

チーフ・トレーナー

高橋 良之

Yoshiyuki Takahashi

日揮プラントソリューション(株)顧問 / 慶應義塾大学非常勤講師

1964年 日揮株式会社入社、国内・海外の石油精製、化学、食品加工、家電、自動車関連プラントのプロジェクトをプロジェクトマネジャーとして担当。エンジニアリング振興協会(当時)では、80年代にプロジェクトマネジメント部会委員を務める。現在は大学を含めたプロジェクトマネジメントの講座、講習会の講師、コンサルタントなどを行っている。



説得と調整のリーダーシップ力を開発・強化

チームマネジメントにおけるリーダーシップに必要なのは、論理的な説得力をもって、人間関係を高めていくコミュニケーションです。ネゴシエーション、プレゼンテーション、アーギュメンテーション、コンフリクトマネジメント、グループインタラクションなどを通して、組織メンバーの意思決定プロセスへの参加を促すマネジメント(Participative Management)が重要なのです。こうした組織全体を見てコンセンサスを作っていくマネジメントは、いわば日本の良い文化とも言えるでしょう。私たちに不足しているイノベーションや戦略性を加えることで、効果的なプロジェクトマネジメントを構築し、海外ビジネスでの日本の競争力を強化し、戦略的リーダーシップをとれる人材を育成します。

岩下 貢

Mitsugu Iwashita

株式会社コミュニケーションセンター所長

南カリフォルニア大学大学院博士課程に2年間在学し、「Debate and Argumentation」のコーチを務める。

その後、山武、マツダ自動車、デンソー、NEC、IBM 各社の海外進出にあたってのマネジメント作成、市場戦略作成、社内外の効果的折衝方法などのセミナーへ参加、助言を行っている。

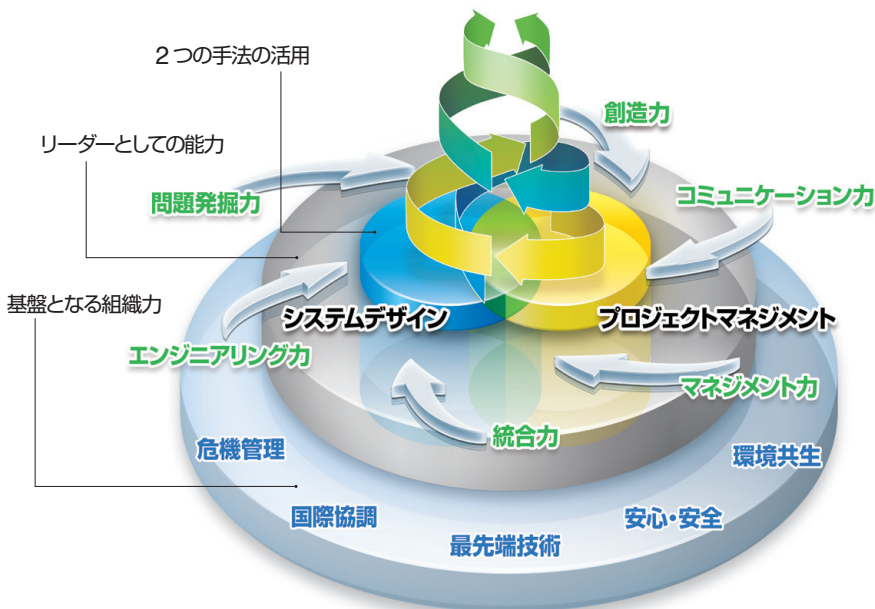


カリキュラム

11/13 [火]	11/14 [水]	11/15 [木]	職場での実践 (後半初日にライブバック)	12/5 [水]	12/6 [木]
◀シンポジウム形式によるオープニング講演会					
	◀システム思考とデザイン思考				
プロジェクトマネジメント▶					
	人材のリーダーシップ強化▶				
					▼契約リスクのマネジメント
					プロジェクトマネジメント▶ 基盤整備

全てのカリキュラムを修了された方には、最終日に「修了証書」をお渡しします。

プロジェクト・マネジャーの能力強化



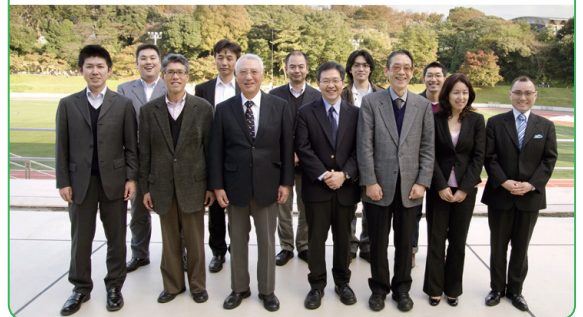
過去参加者からの声

私自身、国際プロジェクト契約の知識が全くなく、今回の講義にて、日本では当たり前と思っている事でも、海外では留意しなければならないことが理解する事ができ、契約書の重要性が非常に勉強になりました。(40代男性)

海外ビジネスコミュニケーションについて、留意点、重要なポイント等を分かり易く講義頂き大変参考になりました。特に日本のプロジェクト・マネジャー、海外のプロジェクト・マネジャーの違いについて非常に興味深く受講させて頂きました。(40代男性)

産学協同の講義の中で、机上で勉強することはとても興味深かったです。異業種でもプロジェクトリーダーになるためのスキルやプロジェクトリーダーになった時の課題、悩みが近いと感ずることができたことは、自分の課題認識に間違いがないと再認識が持てる点でとても良かったです。また講義は、その課題解決の方向性を示してくれていたと思います。(30代男性)

実例を用いた講義をして頂き、大変分かり易い内容でした。特にプロジェクト・マネジャーの任務として、「実務担当者の能力を引き出す、気持ち良く働く環境の提供」というKeywordは非常に共感できました。(40代男性)



「木を見て森も見る」全体のバランスを捉える力を強化

「木を見て森も見る」。プロジェクトリーダーに必要なのは、1本ずつの木を見極めながら、森全体のバランスをうまく捉える力です。高度成長期の苦境を数多く乗り越えてきた経験豊富な世代が次々に引退するなか、従来のOJT中心の方法では、リーダーの育成が間に合わなくなっています。また多くのプロジェクトが、複数の企業が複雑に絡み合う大規模なものとなってきています。高度で複雑な問題を可視化し、多視点で捉えて解決していく「システムデザイン・マネジメント」の考え方を積極的に取り入れた、新しいプロジェクトマネジメント手法により、グローバル社会で勝ち抜いていく次世代のリーダー育成に挑戦します。

白坂 成功

Seiko Shirasaka

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 准教授 / Project Management Professional (PMP)
三菱電機株式会社では「このとり」(HTV: H-II Transfer Vehicle)の開発でアビオニクスアーキテクチャ設計、システム安全設計をはじめ、全体インテグレーションを行う。フライトコントローラとして運用終了まで実施。「このとり」開発では多くの賞を受賞。2011年度より現職。専門分野は、システムズエンジニアリング、宇宙システム工学、システム安全 / 機能安全。

契約上のリスクと法的要請への対応

リーガルマインドに欠けていると言われる日本人。このため、技術的には世界最高レベルのプロジェクトリーダーが、契約リスクの処理を誤って挫折することがしばしば起きている。例えば、プロジェクトそのものは納期内に、仕様書どおり立派に完成したのに、契約で税金の負担について明確にしておかなかったため、最後に現地国の税金を多額に賦課され、一転して大赤字のプロジェクトになってしまった、などが典型的な事例でしょう。「手術は成功した。しかし、患者は死んだ!」の現象が日常茶飯事に生じているのです。このような悲劇はプロジェクトリーダーがわずかに握りの契約知識を持っていれば未然に防げます。本研修で契約リスクの適切な処理方法について習得してください。

古屋 邦彦

Kunihiko Furuya

九州国際大学大学院法学研究科教授

1966年 慶應義塾大学法学部政治学科卒業。同年、総合エンジニアリング会社日揮株式会社に入社。一貫して法務部門に在籍し、国際契約(プロジェクト、知的財産ライセンス、M&Aなど)を担当する。2000年より現職。国際取引法を担当している。



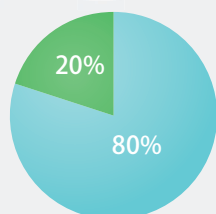
産学協同での強化研修の実現

〈プロジェクト・マネジャーの能力強化スケジュール〉

第1段階 2～4年目

プロジェクトマネジメントの
必要性和仕組みの理解・習得

ON-JOB (産によるコーチング)



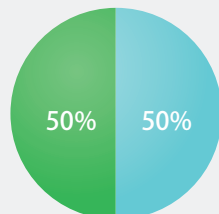
OFF-JOB (学によるティーチング)

プロジェクトを成功裡に導くための「プロジェクトマネジメント」技術の定義と機能から理解・習得する期間。

ON-JOBとOFF-JOBの習得比率は約20:80。

第2段階 4～7年目

プロジェクトマネジメントの
機能・技術の習得

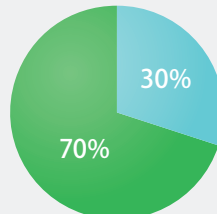


プロジェクト・マネジャーが具備すべき技術を理解し、問題の可視化、多視点に立った判断力を養い、実JOBに適応させながら習得する期間。

ON-JOBとOFF-JOBの習得比率は約50:50。

第3段階 7～10年目

プロジェクトの成功・失敗の事例
研究による専門部門、個人としての
能力アップ

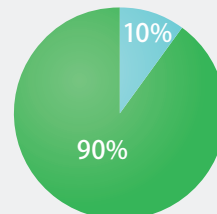


各々の実プロジェクトで発生するトラブルなどを、事例研究を通じて理解を深め、プロジェクト・マネジャーの能力向上を行う重要な期間。

ON-JOBとOFF-JOBの習得比率は約70:30。

第4段階 10～16年目

事例を題材とした Work shop
による企業としてのプロジェクト
遂行能力アップ



ワークショップを通して、事例の中からプロジェクトを成功裡に導くための改革・改善をピックアップし、プロジェクト・マネジャーの更なる能力向上を行う重要な期間。

ON-JOBとOFF-JOBの習得比率は約90:10。

第1段階

第2段階

第3段階

第4段階

「プロジェクト・マネジャー能力強化研修」は、第2段階を中心とし、その前後の段階を一部カバーする

第4回 グローバルビジネスに打ち勝つプロジェクト・マネジャー能力強化研修 募集要項

期 日 : 2012年11月13日(火)～15日(木)、12月5日(水)～12月6日(木)

会 場 : 慶應義塾大学日吉キャンパス協生館

募集定員 : 25名

対 象 : グローバルプロジェクトのリーダーを目指す中堅社員

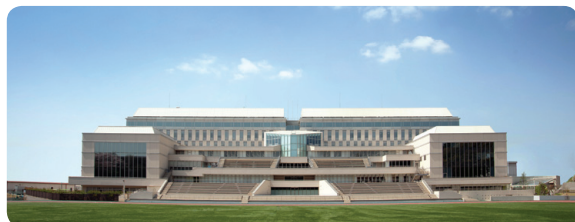
受講料 : 250,000円(税別) ※宿泊費は別途お納めいただきます

申込方法 : WEBサイトよりお申込ください。



協生館宿泊施設

合宿形式セミナーのため、11月13日(火)、14日(水)および12月5日(水)は、原則として協生館内の研修宿泊施設へ宿泊していただきます。

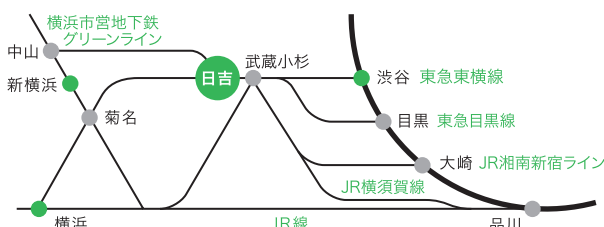


システムデザイン・マネジメント研究所 (SDM 研究所) とは?

SDM 研究所は、企業をはじめ社会のあらゆる組織におけるシステムデザイン・マネジメントの理解とマネジメント能力の向上のため先端的研究・教育を行い、広く社会の発展に寄与することを目的として設立された研究科附属の研究所です。

講座・公開講演・セミナー等の開催ならびに講師派遣、システムデザイン・マネジメントに関する研究調査、外部機関との研究プロジェクトの推進、国際機関・世界各地の大学および研究機関との協力・提携ならびに交流などの事業を行っています。

交通アクセス



東急東横線、東急目黒線

※東急東横線の特急は日吉駅に停まりません。

横浜市営地下鉄グリーンライン

■ 渋谷～日吉: 急行18分(通勤特急16分)

■ 横浜～日吉: 急行12分(通勤特急10分)

■ 新横浜～日吉: 14分

日吉駅直結

お問合せ先

慶應義塾大学
日吉学生部 SDM担当



〒223-8526 横浜市港北区日吉4-1-1 協生館2F
Tel: 045-564-2518 Email: sdm@info.keio.ac.jp

<http://www.sdm.keio.ac.jp/>